

「ティラミステングタケ」

三休さん

「どんなきのこが好きですか？」と聞かれると、答えるのは決まって「かっこいいきのこ」。大きいとか、形がいいとか、写真映えするとか・・・

そうした中でもテングタケ属はスター的存在というか、一般の目から見てもきのこらしいきのこで関心を持ちやすいのではないかな。

ドクツルタケやベニテングタケ、タマゴタケなど「キャラ立ち」したものが多いのも魅力。

テングタケ属も他の分類群同様、不明種が多い。一見、既知種のものに見えても、実は別種であるということは珍しくない。その中でも特に興味深いものを紹介したい。

「ティラミステングタケ」という名称を聞いたことはあるだろうか？これは正式な和名ではなく、一部で仮称されている不明種の呼び名のことである。

その存在を知ったのは、ネット上での正体不明のテングタケ属に関する記事で、その不明種に対して「ティラミステングタケ」の仮称を与えた人がいる。

では、「ティラミステングタケ」とはどんなきのこか・・・

カサの直径5～6cm、高さ十数cmで、カサ表面は灰白色の地に暗褐色の粉末状のものがまぶされており、縁には内被膜の名残と思われる白いフリンジがついていることが多い。ヒダは白色で密。柄は棒状で灰色の地

に白い綿埃状のものがだんだら模様のように付着している。個体により異なるが、柄の上部に白い膜質のツバもしくはその痕跡が残っていることがある。根本はやや丸くふくらみ、カサと同じ粉末が付着している。

発生時期は7～9月頃、シイ・カシやコナラなどの広葉樹林に発生している。

一見、コナカブリテングタケ (*Amanita griseofarinos*) に見えるので、ネット上でもその名前で掲載されているものがあるが、よく見ると、この「ティラミス」が混じっている。似ているので間違えるのも無理はない。

先ほどの「ティラミス」の特徴に対し、コナカブリテングタケは、

- ・ 粉末状である「ティラミス」と異なり、全体が灰色の綿埃をかぶったようになっている
- ・ 柄も全体が灰色の綿埃状で、白い膜質のツバもしくはその痕跡がない

ということから実物を見れば、別物であることを実感することができる。

ネットで見ると、名古屋や大阪、兵庫といった東海や近畿地方～九州北部で発生が確認されているもよう。はじめて実物を見たのは2011年の7月。名古屋市内の公園できのこ探しをしていて偶然気がついた。ここへ来る以前にネットでその存在を知っていたので、見たとたんティラミス！と思ったの

だ。この日はもう一カ所も含めて幼菌から成菌まで多数の「ティラミス」を見ることができた。

見ればすぐわかるが、カサの表面がまさにココアパウダーで、下地の白いのが見えているかんじがまさしくティラミスだ。他方では「マクツバコナカブリテングタケ」とも仮称されている。たしかに膜質のツバを有するコナカブリテングタケなのだが、これに限らず最近の新しい和名や仮称は非常に説明臭くて長ったらしい。それに引き替え、「ティラミステングタケ」は見た目のイメージをよく表しており、わかりやすいので、こちらを支持したい。

これが千葉近辺でも発生しているのかはわからないが、チャオニテングタケなども分布しているのだから（関係ないかもしれないが）、見つかってもおかしくはない。

もし、どこかでこうしたテングタケを見かけたら、注意深く観察してほしい。覚えていたら、あっティラミスだ!とすぐにわかるはず。



幼菌も暗褐色の粉に覆われている



カサ表面はまさにココアパウダーのよう



「ティラミステングタケ」

柄のもうやカサ縁部のフリンジなどが特徴的



柄は灰色地に白い綿クズ状のものがつく